

原発発電量 58%増

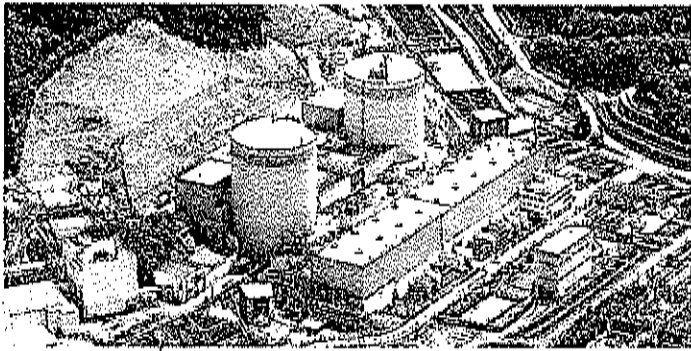
昨年度関西電 福島事故後最大に

関西電力は4日、県内の原発の2023年度の運転実績を発表した。発電電力量は約442億5千万キロワット時と22年度から58%増え、11年の東京電力福島第一原発の事故後で最大となった。

関西電の原発は県内だけに立地する。23年度は、福島の原発事故前後に

同水準になった。

福島の事故後、関西電の原発を取り巻く環境は大



きく変化した。12年には一時、全11基(当時)が停止。国が規制基準を見直した後の15〜17年には、美浜原発1、2号機と大飯原発1、2号機の廃炉を決めた。

一方で12年7月に全国で初めて大飯原発3号機を再稼働させるなど、「原発活用」の先陣を切る形になっている。現在、国内で再稼働済みの12基中7基を関西電の原

町 関西電力高浜原発1号機、2号機 2023年7月、高浜

発が占める。うち3基(美浜3号機、高浜1、2号機)は運転開始から40年を超えた老朽原発だ。

また関西電によると、23年度に自治体との安全協定に基づいて報告した原発のトラブルは4件だった。そのうち法令に基づく国への報告事案は3件。いずれも高浜原発でのトラブルで、蒸気発生器の伝熱管の損傷(23年10月、24年1月)と配管からの蒸気漏れ(24年1月)だった。

(佐藤常敏)

定期検査入りして止まっていた高浜原発1、2号機が再稼働。関西電が「目標」としてきた全7基が稼働する体制となり、発電電力量を押し上げた。

また、運転実績の指標の一つ「設備利用率」も76・6%と22年度より28・1%上昇。福島事故前の10年度(78・2%)と